

13 女子大生の着衣状態の調査研究（第2報）

名古屋市立女子短大 佐野 恂子

1 若い女子大生の、着衣状態、新繊維の利用法、而してそれは合理的な衣生活であるかなど、疑問を持ち、本調査研究を行った。

2 本学被服科学生 40 名に、昭和 33 年 4 月より 34 年 3 月迄の一年間、毎月 20 日前後の午前 10 時～12 時

の間、同一教室（冷暖房なし）で、被服工作の授業中所定の用紙に、その着用衣服の夫々の種別、材料、形状、重量を記入させ、比体重率を求め、その時の温感をも記入させた。同時に室内の気温気湿を記録しておいたのである。

この調査を集計して今回は、

- (1) 四季別に、上着下着夫々の重量の、全衣服重量に対する割合、及びそれら重量の四季別変化の状態。
- (2) 四季別に、下着の地質について。
- (3) 四季別に、衣服の構成方法（材料の地質と織方）について、検討し、報告する。

3 (1)は、四季を通じ、上着 62~68%、下着 32~38% で、その割合は、著しい変化なく、冬から春へは下着、春から夏へは上着が夫々減少し、夏から秋へは上着、秋から冬へは下着が夫々増加する。

(2)は、四季を通じ、木綿が最も多く使用されている。

(3)は、一般に暖い着方と云われる、内に編物を用い、外に通気性の少い織物を用いると云う方法が、概ねなされている。